**大阪府環境影響評価審査会現地調査の概要**

―枚方京田辺環境施設組合可燃ごみ広域処理施設整備事業に係る環境影響評価方法書―

**１　日時　平成30年３月９日（金曜日）午後２時から午後４時まで**

**平成30年３月12日（月曜日）午後２時から午後４時まで**

**２　場所　（現地調査）事業予定地及びその周辺の調査地点等**

**（質疑応答）枚方市東部清掃工場　３階　見学者説明室**

**３　会議の公開・非公開　会議（質疑応答）は公開で開催**

**４　傍聴者　なし**

**５　出席委員**

（１）３月９日（金曜日）

市川委員、翁長委員、島田委員、津野委員、東野委員、

（２）３月12日（月曜日）

魚島委員、岡崎委員、曽和委員、高岡委員、中野委員、前畑委員、又野委員

　　　岡委員、秋山委員は、所用のため、それぞれ３月13日（火曜日）、14日（水曜日）に

現地調査を実施した。

**６　事業者等**

　　枚方京田辺環境施設組合及び八千代エンジニアリング株式会社

**７　現地調査ルート**

　　次の①から⑥において、方法書に記載されている調査地点等について事業者から説明を受けた後に、枚方市東部清掃工場内の会議室で質疑応答を行った。

　**①京田辺市環境衛生センター甘南備園の南側駐車場**

Ａ１：「一般環境大気質」を自動連続測定する調査地点

Ｍ１：「気象（地上気象・上層気象）」の調査地点

Ｎ１：「環境騒音・振動、超低周波音」の調査地点

Ｓ１：「悪臭」の調査地点

Ｇ１：「土壌沈降試験」の調査地点

「動物・植物・生態系」の調査範囲

**②京奈和自動車道田辺西インター近傍にある調整池及び水路**

地点Ａ：「魚類、底生動物」の調査地点

地点Ｂ：「魚類、底生動物」の調査地点

Ｗ１：「水質（ＳＳ、濁度、透明度、流量）」の調査地点

**③国道307号沿道の氷室低区配水場**

Ａ12：「沿道大気質」の調査地点

Ｍ10：「気象（風向・風速）」の調査地点

Ｎ３：「道路交通騒音・振動、交通量等」の調査地点

**④枚方市東部スポーツ公園**

Ｐ１：「人と自然との触れ合いの活動の場」として公園全体

Ａ８：「窒素酸化物」を簡易測定する調査地点

Ｍ８：「気象（風向・風速）」の調査地点

地点１：「猛禽類」の調査地点

Ｌ５：「景観」の調査地点

**⑤国道307号の馬廻交差点にある店舗の駐車場**

Ｌ４：「景観」の調査地点

**⑥宗谷公園**

Ａ５：「一般環境大気質」を自動連続測定する調査地点

Ｍ５：「気象（風向・風速）」の調査地点

Ｓ５：「悪臭」の調査地点

**８　主な質疑応答**

Ｑ：事業予定地内は、二次林か。林内に沢筋（さわすじ）はあるか。

Ａ：そのとおり。沢筋はない。

Ｑ：調整池は四季を通して水がない状況か。雨の多い梅雨時期や９月頃に様相は変わるのか。

Ａ：変化はない。

Ｑ：それでは濁水も流れて来ないのか。裸地になったときは可能性としてあるのか。

Ａ：事業予定地にも沈砂池は設けるので、濁水はほとんど流れないと思う。今は樹木もあるので保水力があるが、裸地になる造成期間中は、それ相応の水量は発生すると考えている。

時間10ｍｍ程度の雨のときにサンプリングすることを考えている。

Ｑ：調査地点Ｂの調整池に流入している水はきれいなので、食虫植物である毛氈苔（もうせんごけ）が生育している可能性があり、確認願いたい。１年草であるので、保存は難しいと思うが、標本にするなどとともに、情報だけは残してほしい。

Ａ：承知した。

Ｑ：Ｎ３の調査地点では、道路交通騒音がかなり大きかったが、基準は遵守できているのか。

Ａ：Ｎ３の近くの信号が青で車が通過するとき、瞬間的に騒音レベルが上がるが、環境基準はクリアしている。ただし、京田辺市側のＮ２の調査地点は基準超過している。

Ｑ：猛禽類調査の時間は何時から何時までか。また、その設定根拠は。

Ａ：朝８時から夕方４時まで。上昇気流の発生により活動を始める８時頃からねぐらに帰る16時頃とした。

Ｑ：猛禽類調査は３地点で連携して同時に実施するのか。

Ａ：３地点同時に行う。

Ｑ：猛禽類調査は雨天時でも実施するのか。

Ａ：猛禽類が飛ばない、つまりタカの餌となる鳥類が飛ばないであろうと容易に予想できる大雨や強風のときは延期する。

Ｑ：事業予定地周辺の200ｍの範囲内の動植物調査の具体的な計画が示されていないのでわからないが、臨機応変に一般鳥類の調査もお願いしたい。

Ａ：承知した。準備書のときにはどのルートを観察して確認したか記載する。

Ｑ：配慮書のときに、お茶畑があるので影響はないか不安だという住民意見があった。本日の調査では耕作地が見られなかったが、近辺にあるのか。

Ａ：約３ｋｍ離れた飯岡丘陵というところに茶畑がある。甘南備園からの排出ガス濃度と比較しても新施設は低濃度になるので、本事業による影響はないと考えている。

Ｑ：甘南備山にある調査地点P2からの眺望はどうか。

Ａ：展望台の北側は元々開けていて、京都市内を一望できる。事業予定地方向の南東側は薮で見えないとしていたが、山の整備で少し視界が広がり、展望台から甘南備園の施設も見え、事業予定地の煙突が視認できることが先日判明したので、準備書では記載する方向で検討している。ただし、方法書にも記載のとおり、ハイキングコースからは視認できない。

Ｑ：一般環境大気質を調査する調査地点Ａ５の宗谷公園に隣接してある生コンの事業所の稼働状況は把握しているか。

Ａ：年中稼動していると思う。残土の受入もしているところ。本事業の発生土もそこに持っていく可能性がある。

Ｑ：その事業所の稼働状況を可能な限り的確に把握した上で、大気質の調査を実施されたい。

Ａ：本調査時に事業所の稼動状況を把握しておく。

Ｑ：工事中や供用時の事後調査でも今回と同じ調査地点で行うのか。

Ａ：準備書において事後調査について記載するが、今のところ、Ａ１からＡ５までの５地点では測定する予定。

Ｑ：焼却熱を利用して発電する電気は何に使用するのか。周りに発電した電気を使用するような施設等も見受けられないが。

Ａ：基本的には自家消費。残りの電気は売電する予定。

Ｑ：近くに断層はあるか。

Ａ：近隣に断層はないが、近いところでは生駒断層があり、枚方市でも京田辺市でもその断層が動いたときのハザードマップを作成している。